



国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

(ご参考資料)

2022年3月期

第1四半期決算補足説明資料

2021年8月11日

国際紙パルプ商事株式会社

東証1部

9274

2022年3月期 第1四半期決算業績：前年同期より大幅に改善



売上高

- ▶ 2020年7月に買収した仏Antalis社の業績がフル寄与。前年同期比530億円超の増収効果。
- ▶ 新型コロナ感染拡大の影響を受けたペーパー事業やビジュアルコミュニケーション事業をパッケージ事業でカバー。

営業利益

- ▶ 買収した豪Spicers社の業績が貢献。
- ▶ 仏Antalis社も利益を押し上げ、また、製紙原料の価格上昇により利益が伸長。
- ▶ 中国事業の再構築が順調に推移。また、良好な中国市場によって業績も急回復。

	2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期			
		売上比		売上比	前年同期比	増減率
売上高	82,118	100.0%	129,687	100.0%	+47,569	+57.9%
営業利益	※△2,717	—	1,551	1.2%	+4,268	—
経常利益	※△2,515	—	1,797	1.4%	+4,312	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	※△2,690	—	1,412	1.1%	+4,102	—

(※) 中国事業にて貸し倒れが発生したことにより2,774百万円を貸倒引当金繰入額に計上。
(貸倒による引当金は前期にて全て計上済みであり、その処理は全て完了。)

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の2022年3月期第1四半期実績は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。



2022年3月期 通期業績予想を上方修正

【上方修正のキーポイント】

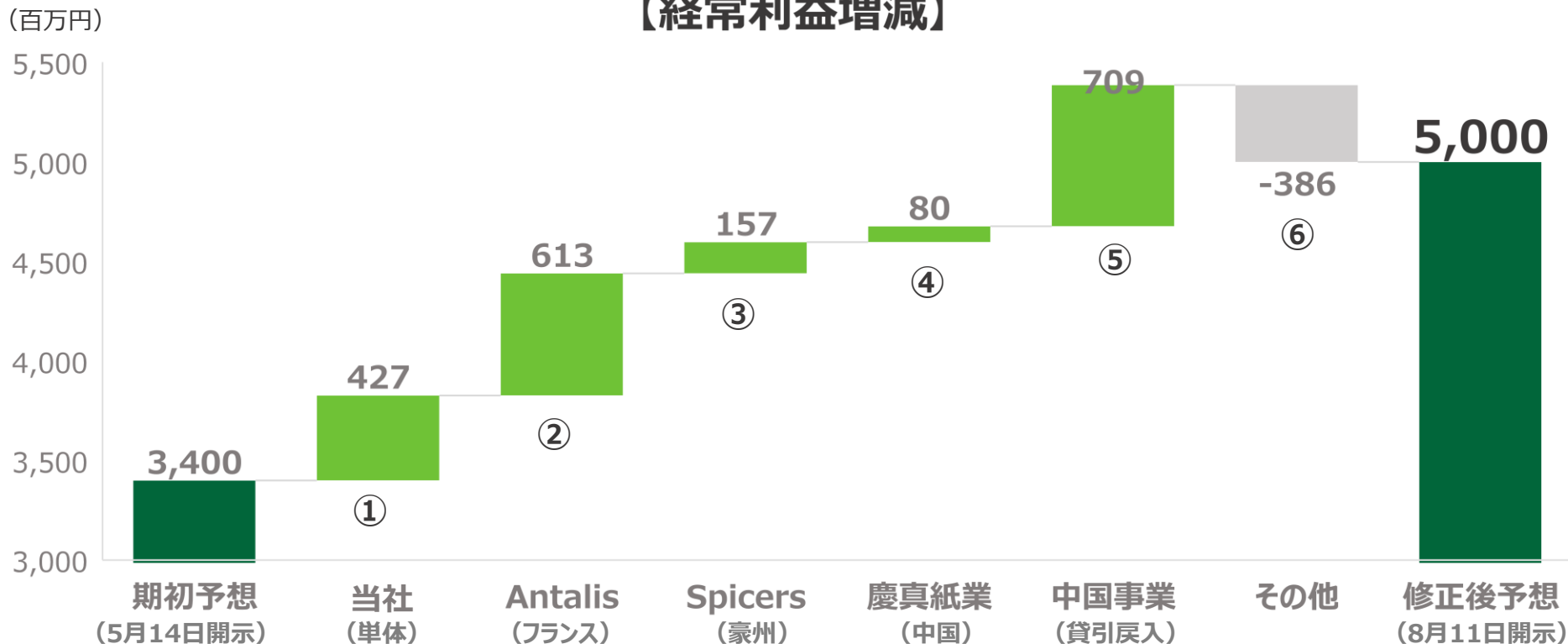
- 1 海外M&A**
 - ▶ 仏Antalis社、豪Spicers社の業績が好調。利益率の高い海外拠点セグメントが国内拠点セグメントを逆転。
(※5ページ参照)
- 2 中国事業の再構築**
 - ▶ 中国国内において新たにストックビジネスを6拠点で展開。市況の回復も追い風となり、想定を超えた業績回復となる。Antalis中国事業とのシナジー効果にも期待。
- 3 多様な事業ポートフォリオ**
 - ▶ パッケージ事業が巣ごもり・Eコマース需要の伸びを取り込み伸長。
 - ▶ 海外事業会社におけるペーパー事業・ビジュアルコミュニケーション事業が、経済活動の回復基調に伴い好調。

	2022年3月期・期初予想 (2021年5月発表)		2022年3月期・今回修正予想 (2021年8月発表)			
		売上比		売上比	増減額	増減率
売上高	534,000	100.0%	545,000	100.0%	+ 11,000	+ 2.1%
営業利益	4,900	0.9%	5,900	1.1%	+ 1,000	+ 20.4%
経常利益	3,400	0.6%	5,000	0.9%	+ 1,600	+ 47.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,300	0.4%	4,200	0.8%	+ 1,900	+ 82.6%

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。



【経常利益増減】



補足

- ① 製紙原料の価格改善。販管費の削減により増益。
- ② 【ペーパー事業】 価格修正による増益
【パッケージ事業】 堅調な需要継続
【ビジュアルコミュニケーション事業】 市場の回復
【金融費用】 金利の大幅改善
- ③ 業績が堅調に推移。3月以降紙の値上の効果。
- ④ 6拠点の販売好調。上期は市況高騰も、下期にかけては軟調懸念（リスク折込済）。
- ⑤ 前期計上の貸倒引当金の回収（確定分）
- ⑥ 東南アジア他にてコロナ感染拡大による減収リスク見込む。

2022年3月期 第1四半期決算概要とコロナ禍前後の業績トレンド



■ 新型コロナによる経済への悪影響が収束傾向へ。

→ コロナ禍前 ← コロナ禍当初の経済悪化 → 海外M&A効果と経済活動の再開

(百万円)	2020年3月期 第1四半期		2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期 (実績)			2022年3月期 (予想)		
	売上比	売上比	売上比	売上比	売上比	前年 同期比	期初予想 (5月発表)	修正予想 (8月発表)	増減額	
売上高	92,254	100.0%	82,118	100.0%	129,687	100.0%	+47,569	534,000	545,000	+11,000
売上総利益	5,203	5.6%	5,558	6.8%	20,924	16.1%	+15,366	82,000	87,000	+5,000
販売費及び 一般管理費	4,734	5.1%	8,276	10.1%	19,372	14.9%	+11,096	77,100	81,100	+4,000
営業利益	469	0.5%	△2,717	△3.3%	1,551	1.2%	+4,268	4,900	5,900	+1,000
貸倒引当金 戻入額	13	-	15	-	549	-	+534	-	-	-
経常利益	624	0.7%	△2,515	△3.1%	1,797	1.4%	+4,312	3,400	5,000	+1,600
親会社株主 帰属 当期純利益	606	0.7%	△2,690	△3.3%	1,412	1.1%	+4,102	2,300	4,200	+1,900

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の2022年3月期第1四半期実績および業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

2022年3月期 第1四半期決算概要とコロナ禍前後の業績トレンド【セグメント別】



■ 前期発生した香港・中国事業での貸倒の影響が収束へ。海外企業買収効果が顕在化。

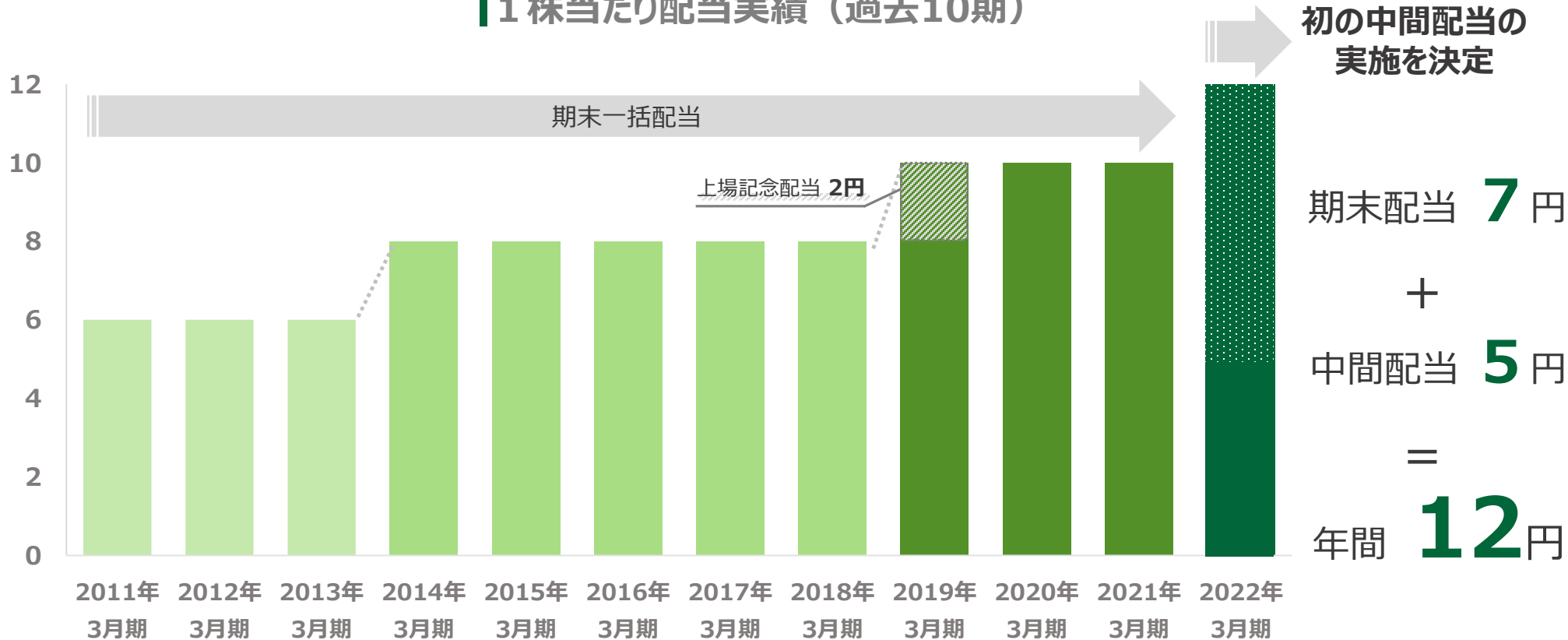
(単位：百万円)		コロナ禍前	コロナ禍当初 の経済悪化	海外M&A効果と経済活動の再開		
		2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期		
					前年同期比	増減率
国内拠点 紙パルプ等卸売事業	売上高	73,556	58,082	60,888	+2,806	+4.8%
	セグメント利益	998	467	1,175	+708	+151.6%
	利益率	1.4%	0.8%	1.9%	+1.1%	-
海外拠点 紙パルプ等卸売事業	売上高	18,399	23,724	68,489	+44,765	+188.7%
	セグメント利益	4	△2,710	1,035	+3,745	-
	利益率	0.0%	-	1.5%	-	-
不動産賃貸事業	売上高	297	311	310	△1	△0.3%
	セグメント利益	144	168	43	△125	△74.4%
	利益率	48.5%	54.0%	13.9%	△40.1%	-
合 計	売上高	92,254	82,118	129,687	+47,569	+57.9%
	セグメント利益	1,147	△2,073	2,253	+4,326	-
	調整額	△677	△643	△702	△59	-
	営業利益	469	△2,717	1,551	+4,268	-
	利益率	0.5%	-	1.2%	-	-

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の2022年3月期第1四半期実績は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

配当方針を変更：中間配当を決定・年間12円に増配



1株当たり配当実績（過去10期）



■ 中間配当および増配の理由

仏Antalis社および豪Spicersの買収により、収益基盤が**安定的**かつ**強固**なものへと変貌

配当性向30%を目処に安定的かつ継続的に配当する方針のもと、**12円**（+2円）へと増配予定



- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。



問合せ先

国際紙パルプ商事株式会社 経営企画課

TEL 03-4431-7215

✉ kpp_ir@kpp-gr.com



紙でつなぐ、未来をつくる

KPP Group